

☆めあて 詩の種類を見極めて言えるようになるう！

次の詩の、詩の種類を、それぞれ漢字五字で書きなさい。

落葉松（からまつ） 北原白秋

- 一  
からまつの林を過ぎて、  
からまつをしみみと見き。  
からまつはさびしかりけり。  
たびゆくはさびしかりけり。
- 二  
からまつの林を出でて、  
からまつの林に入りぬ。  
からまつの林に入りて、  
また細く道はつづけり。
- 三  
からまつの林の奥も  
わが通る道はありけり。  
霧雨のかかる道なり。  
山風のかよふ道なり。
- 四  
からまつの林の道は  
われのみか、ひともかよひぬ。  
ほそぼそと通ふ道なり。  
さびさびといそぐ道なり。

詩の種類は・・・

冬が来た 高村光太郎

きつぱりと冬が来た  
八つ手の白い花も消え  
公孫樹いちしょうの木も箒ほうきになった  
きりきりともみ込むような冬が来た  
人ひとにいやがられる冬  
草木くさむに背かれ、虫類に逃げられる冬が来た  
冬よ  
僕おれに来い、僕おれに来い  
僕は冬ふゆの力、冬は僕の餌食えじきだ  
しみ透れとお、つきぬけ  
火事を出せ、雪で埋めろ  
刃物やいばのような冬が来た

詩の種類は・・・

☆ヒント「詩の種類」はこうやって見極める！

①【文体】で見極める！

	<p>昔の<b>文体</b>で書かれている詩。 昔の文体かどうかは、<b>文末</b>で見極める！</p> <p>くけり、くたり、くなり、くし（過去）</p> <p>△歴史的仮名遣い（これで見極めるのは危険……）</p> <p>現代の文体で書かれている詩。</p>

②【音数】で見極める！

	<p>音数に一定のきまりがある詩</p> <p>音数が決まっていない自由な形式の詩。</p>

【文体】＋【音数】を組み合わせ、詩の種類を答えよう！

【答え】

落葉松（からまつ）

北原白秋

一

五音

七音

からまつの林を過ぎて、

からまつをしみじみと見き。

からまつはさびしかりけり。

たびゆくはさびしかりけり。

二

からまつの林を出でて、

からまつの林に入りぬ。

からまつの林に入りて、

また細く道はつづけり。

三

からまつの林の奥も

わが通る道はありけり。

霧雨のかかる道なり。

山風のかよふ道なり。

四

からまつの林の道は

われのみか、ひとまかよひぬ。

ほそぼそと通ふ道なり。

さびさびといそぐ道なり。

文末の  
～けり、～なり！

五七調  
(五音・七音のリズム  
になっている)

冬が来た

高村光太郎

きつぱりと冬が来た

八つ手の白い花も消え

公孫樹いぢょうの木も箒ほうきになった

きりきりともみ込むような冬が来た

人ひとにいやがられる冬

草木くさむに背かれ、虫類むしに逃げられる冬が来た

冬よ

僕わがに來い、僕わがに來い

僕は冬ふゆの力、冬は僕わがの餌食えじきだ

しみ透とおれ、つきぬけ

火事かじを出せ、雪ゆきで埋める

刃物やいばのような冬が来た

詩の種類は・・・

文語定型詩

詩の種類は・・・

口語自由詩

☆ヒント「詩の種類」はこうやって見極める！

①【文体】で見極める！

<b>文語詩</b>	<p>昔の文体で書かれている詩。 昔の文体かどうかは、<b>文末</b>で見極める！</p> <p>くけり、くたり、くなり、くし（過去）</p> <p>△歴史的仮名遣い（これで見極めるのは危険……）</p>
<b>口語詩</b>	<p>現代の文体で書かれている詩。</p>

②【音数】で見極める！

<b>定型詩</b>	<p>音数に一定のきまりがある詩</p>
<b>自由詩</b>	<p>音数が決まっていない自由な形式の詩。</p>